

■EU：2020年までの温室効果ガス削減目標の引上げを断念

欧州委員会のヘデゴークラウゼン気候変動担当委員は2010年5月26日、2020年までの温室効果ガスの削減目標を現行の20%から30%に引き上げる提案を断念すると述べた。同委員がEUの気候変動対策に関する報告書を欧州議会に提出した際に言及したもの。EU内では英国がこの提案を支持する一方、フランスやイタリア、ポーランドなどは国際的な合意なしにEUだけが目標値を引き上げることに反対を表明していた。また、産業界からもドイツ産業連盟(BDI)が「これ以上の削減努力には応じられない」と発表するなど、提案への反対意見が多く出ていた。なお、ヘデゴークラウゼン委員は今回の提案を断念したものの、目標値の引き上げについては「経済危機によるエネルギー需要の低迷によって、目標達成に必要と見積もられた費用は、当初の年間700億ユーロ(約7兆7,000億円)から480億ユーロ(約5兆2,800億円)にまで下がっている。また、EU-ETSにおける炭素価格も、参加企業に高い削減目標を与えることによって、現在の16ユーロ(約1,760円)/CO₂トンの水準から30ユーロ(約3,300円)/CO₂トンまで引き上げることが可能である」として提案の正当性を主張している。